

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 9 月 12 日 (2019.9.12)

【公表番号】特表 2017-526747 (P2017-526747A)

【公表日】平成 29 年 9 月 14 日 (2017.9.14)

【年通号数】公開・登録公報 2017-035

【出願番号】特願 2017-530956 (P2017-530956)

【国際特許分類】

C 0 7 D 215/22 (2006.01)

A 6 1 P 25/18 (2006.01)

A 6 1 K 31/496 (2006.01)

【F I】

C 0 7 D 215/22

A 6 1 P 25/18

A 6 1 K 31/496

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 1 年 8 月 1 日 (2019.8.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

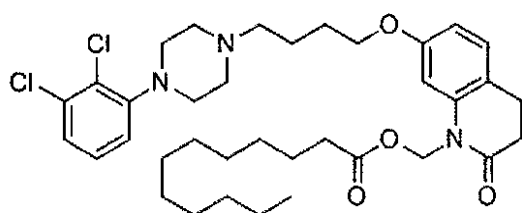
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 (I) の化合物の結晶形態の製造プロセスであって、

【化 1】



式 (I)

前記製造プロセスが：

(a) 前記式 (I) の化合物もしくはその塩またはその溶媒和物を酢酸イソプロピルと混合することによって薬液を取得し；

(b) 前記薬液を n - ヘプタン と混合して混合液を形成し；

(c) 前記混合液を冷却し；及び、

(d) 前記混合液の温度が 31 ~ 43 の範囲内にあるときに、前記混合液を均質化して、0.50 ~ 3.3 m<sup>2</sup> / g の表面積を有する前記式 (I) の化合物の結晶化粒子を形成する工程を含む、前記製造プロセス。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の製造プロセスであって、

(e) 均質化を停止し、前記混合液を加熱することによって前記式 (I) の化合物の前

記結晶化粒子を再溶解し；

( f ) 前記混合液を冷却し；及び、

( g ) 前記混合液の温度が  $31 \sim 43$  の範囲内にあるときに、前記混合液を均質化して、 $0.50 \sim 3.3 \text{ m}^2 / \text{g}$  の表面積を有する前記式 ( I ) の化合物の結晶化粒子を形成する工程をさらに含む、前記製造プロセス。

【請求項 3】

前記結晶化粒子が、 $0.80 \sim 1.1 \text{ m}^2 / \text{g}$  の表面積を有する、請求項 1 または 2 に記載の製造プロセス。

【請求項 4】

前記結晶化粒子が  $1.00 \text{ m}^2 / \text{g}$  の表面積を有する、請求項 1 または 2 に記載の製造プロセス。

【請求項 5】

前記結晶化粒子の  $D_v [50]$  が  $10 \sim 30 \mu\text{m}$  である、請求項 1 または 2 に記載の製造プロセス。

【請求項 6】

前記結晶化粒子の  $D_v [50]$  が  $10 \sim 20 \mu\text{m}$  である、請求項 5 に記載の製造プロセス。

【請求項 7】

前記工程 ( b ) において、前記混合液の温度が  $55 \sim 65$  の範囲にある、請求項 1 に記載の製造プロセス。

【請求項 8】

前記混合液の温度が  $31 \sim 35$  の範囲にある、請求項 1 に記載の製造プロセス。

【請求項 9】

前記混合液の温度が  $34$  である、請求項 1 に記載の製造プロセス。

【請求項 10】

前記工程 ( a ) ~ ( c ) の 1 つ以上を攪拌下で実施する、請求項 1 に記載の製造プロセス。

【請求項 11】

前記工程 ( a )、( b )、( c )、( d )、( e )、( f )、及び ( g ) のうちの 1 つ以上を攪拌下で実施する、請求項 2 に記載の製造プロセス。

【請求項 12】

前記結晶化粒子を濾過する工程をさらに含む、請求項 1 または 2 に記載の製造プロセス。

【請求項 13】

前記結晶化粒子をすすぐ工程をさらに含む、請求項 12 に記載の製造プロセス。

【請求項 14】

前記結晶化粒子を乾燥させる工程をさらに含む、請求項 13 に記載の製造プロセス。

【請求項 15】

前記工程 ( d ) において、前記混合液の温度が  $31 \sim 38$  の範囲内である、請求項 1 に記載の製造プロセス。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

一実施形態において、工程 ( d ) の目標温度は、約  $31 \sim 35$  の範囲内である。特定の実施形態では、工程 ( d ) の目標温度は約  $34$  である。工程 ( d ) の別の実施形態では、混合液の温度が目標温度 (例えば、約  $31 \sim 38$  で) より約  $0 \sim 4$  高いときに均質化を開始する。